

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	38	人	国語B	38	人
② 算数A	38	人	算数B	38	人
③ 理科	38	人			

5 留意事項

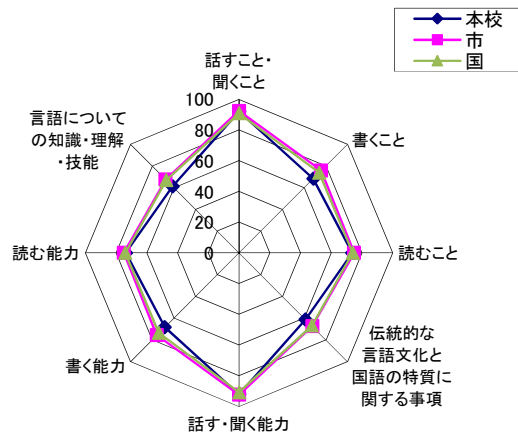
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

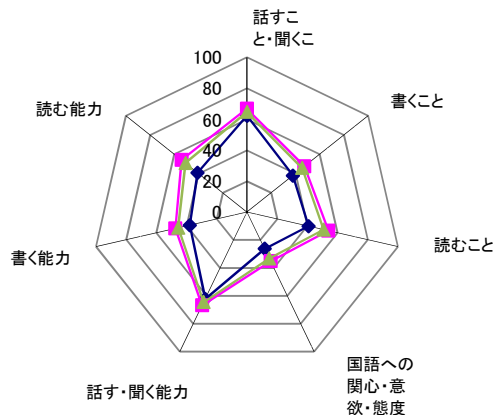
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	92.1	92.4	90.8
	書くこと	68.4	75.7	73.8
	読むこと	73.7	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.2	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	92.1	92.4	90.8
	書く能力	68.4	75.7	73.8
	読む能力	73.7	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	61.2	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	62.3	66.8	64.6
	書くこと	37.9	47.4	45.6
	読むこと	40.8	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	26.3	35.2	33.2
	話す・聞く能力	62.3	66.8	64.6
	書く能力	37.9	47.4	45.6
	読む能力	40.8	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

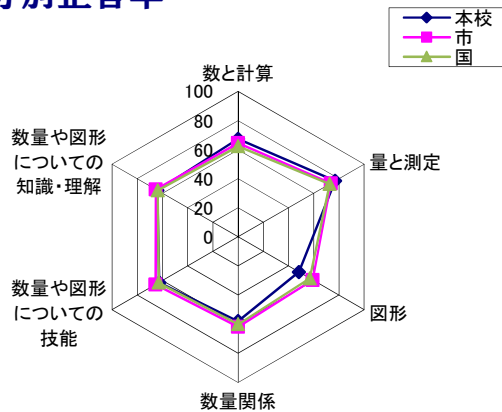
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話す」設問では、県や全国の正答率を上回った。 ●「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」ことについては、無答が多く、県や全国の正答率を下回った。	・授業の中で、自分の考えとの共通点や相違点、関連して考えたことなどポイントを意識させながら、繰り返し聞く機会をつくる。 ・ペア学習やグループ学習の中で自分の意見を述べることはできてきているので、学級全体や日常生活の中で筋道を立てて意見を述べるができるよう機会を設けていく。
書くこと	○「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」ことについては、県や全国の正答率とほぼ同じであった。 ●「文章を推薦するためには、他の物と比較して書くことでよさが伝わることを捉える」ことについては、県や全国の正答率を大きく下回った。 ●記述式の設問についての無答が多かった。	・書く目的や意図に応じて伝えたい内容が十分に伝わるように、ポイントを意識させて文章を書く活動を多く取り入れる。 ・構想メモをつくり、事実や感想、意見、理由、根拠などを整理して筋道の通った文章を書けるようにする。
読むこと	○「目的に応じて、必要な情報を捉える」ことについては、県や全国の正答率を上回った。 ●「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む」ことについては、無答が多く、県や全国の正答率を下回った。	・説明文の学習で、キーワードやキーセンテンスを見付ける学習を通して、筆者の述べたいことの内容の中心を捉えるとともに、その話題に対しての自分の意見をまとめる時間を確保し、意識しながら文章を読むことができるよう支援する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○慣用句や敬語の使い方については、県や全国の正答率を上回った。 ●主語や述語の関係などに注意して分を正しく書くことについては、県や全国の正答率を下回った。	・漢字の読み書きについて、引き続き復習の機会を設け、授業と家庭学習で繰り返し練習し、定着を図る。 ・言葉の意味について調べる活動や、文の中での言葉の役割について考える問題練習などを多く取り入れ、語彙を増やすとともに、日常生活の中で言葉の役割についての理解を深めることができるようにする。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

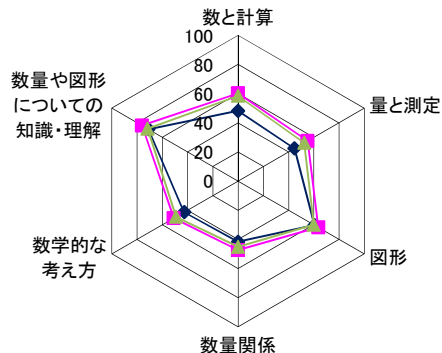
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	67.4	64.5	62.3
	量と測定	77.0	73.6	72.7
	図形	48.2	59.1	56.9
	数量関係	57.9	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	62.6	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	64.0	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	48.2	60.2	58.4
	量と測定	44.7	55.0	52.4
	図形	60.5	63.5	59.9
	数量関係	41.6	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.7	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	71.1	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

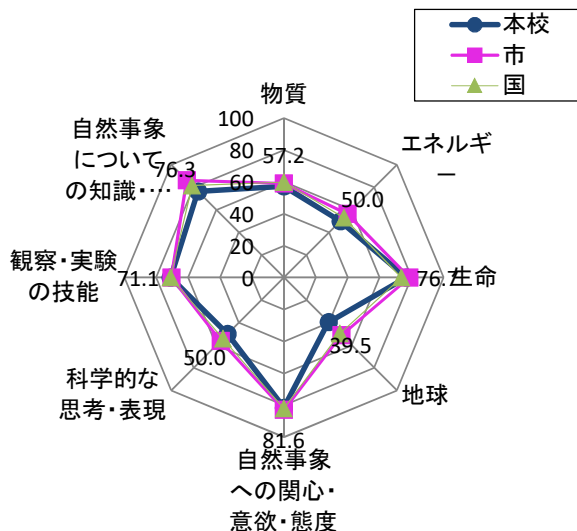
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○1にあたる大きさを求める問題場面における数量関係を理解し、数直線上に表すことについては、県や全国の正答率を大きく上回った。 ●記述式で考え方や答えを書く問題については、無答が多く、県や全国の正答率を下回った。	・朝の学習の時間などを利用して、加法、減法、乗法、除法が混じった問題に取り組み、反復練習を多く取り入れ更なる定着を図る。 ・計算の仕方や考え方を文章や図で記述して考える機会を多く取り入れ、習熟を図る。
量と測定	○混み具合の比べ方や、分度器を用いて180度以上の角度を求めることについては、県や全国の正答率を上回った。 ●記述式で考え方や答えを書く問題については、正答率は県や全国を上回ったが、無答が多かった。	・基礎的な事項については、おおむね理解できているので、問題練習で活用問題を解く機会を取り入れ、深く考えて問題に取り組めるよう支援する。 ・複雑な問題などで、自分の考えや解き方を文章や図で記述し説明する機会を多く取り入れ、習熟を図る。
図形	○直径の長さや円周の長さの関係の理解については県や全国の正答率とほぼ同じだった。 ●空間にあるものの位置を表現することや円周率の意味の理解については、県や全国の正答率を下回った。	・図形の名前や長さの求め方などは理解できているが、その意味まで理解できているとは言えないので、復習の中で再確認する機会を用いて習熟を図る。 ・空間の位置関係などについて、問題練習等を中心に日常生活においても考える機会を多く取り入れ、習熟を図る。
数量関係	○除法で表すことができる二つの数量関係を理解することについては県や全国の正答率を上回った。 ●折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることについては県や全国の正答率を大きく下回った。	・グラフの読み取りについて、図や式と連動させて読み取り、文章で表現する機会を多く取り入れる。 ・少人数指導や習熟度別学習を活用して、児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。

宇都宮市立富屋小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	57.2	59.0	59.8
	エネルギー	50.0	56.4	53.1
	生命	76.7	78.6	73.6
	地球	39.5	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	81.6	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	50.0	56.1	54.1
	観察・実験の技能	71.1	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	76.3	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○二つの異なる方法の実験結果を分析することについては、県や全国の正答率を上回った。 ●食塩の蒸発について、実験結果から言うことだけに言及して結論を書くことについては、県や全国の正答率を下回った。	・水溶液の性質の基礎的事項についておおむね理解できているので、問題練習などの機会を用いて習熟を図る。 ・実験結果を考察する時間を十分に確保し、結果から言及できる結論について意識できるように支援する。
エネルギー	○乾電池のつなぎ方を変えると電流の流れる向きが変わることを実際の回路に適用することについては県や全国の正答率を上回った。 ●電流の流れ方に関する問題では、結果を見通して実験を構想することについて県や全国の正答率を下回った。	・乾電池のつなぎ方と電流についての基礎的な事項は理解できているので、問題練習などの機会を用いて習熟を図る。 ・予想をしっかりと立て、その予想が正しかった時にはどのような結果が出るのかを考えて実験に取り組むように常に声をかけ、予想と実験結果を関連付けて考えられるよう支援する。
生命	○おおむね、県や全国の正答率と同程度だった。 ●鳥の翼と人間の腕のつくりについて調べた結果を問題に対応した視点で分析することについては、県と全国の正答率をやや下回った。	・動物やヒトのからだのつくりについてはおおむね理解できているので、問題で示されている部分が、既習内容とどのように関係するのか考える機会を多く取り入れ、習熟を図る。 ・調べ学習では、調査した結果から結論を考察するまでを一連の流れとして取り組み、分析して考える力を伸ばせるよう支援する。
地球	○一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方について実験結果を考察することについては、県や全国の正答率をやや下回った。 ●堆積作用についての言葉の理解や、流れる水の働きについて結果を見通して実験を構想することについては、県や全国の正答率を大きく下回った。	・流れる水のはたらきについて復習し、基礎的な内容の理解の定着を図る。 ・予想をしっかりと立て、その予想が正しかった時にはどのような結果が出るのかを考えた上で実験に取り組む、予想と実験結果を関連付けて考えられるよう支援する。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「将来の夢や目標をもっていますか」という問いにほとんどの児童が肯定的に回答した。今後も、将来に夢や希望をもち、目標に向かって行動できる児童の育成に力を注いでいきたい。
- 「学校のきまりを守っていますか」という問いにすべての児童が肯定的に回答した。きまりを守ることの大切さについて、今後も声をかけ続けていきたい。
- 「学校の授業以外に、普段1日当たりどのくらいの時間勉強をしますか」という問いに、75%以上の児童が1時間以上と回答した。しかし、「授業の予習・復習をしていますか」という問いには35%以上が否定的に回答している。家庭学習の時間の確保に合わせ、予習や復習といった学習の質を高めていけるよう声をかけていきたい。
- 「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりすることがあったと思いますか」という問いに対して、9割近くの児童が肯定的に回答した。総合的な学習の時間を活用して「富屋ふるさと学習」を行っていることが表れている。今後も地域に根差した学校づくりに取り組んでいきたい。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という問いに肯定的に回答した児童の割合が県や全国よりも高かった。算数や理科の必要性・有用性については児童も十分に意識できている。今後も機会を見つけて、社会生活の中に、どのようにしてそれぞれの教科の学習が生かされているのかを伝えていきたい。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という問いに肯定的に回答した児童の割合が県や全国よりも高かった。学習したことをきちんとノートにまとめ、既習事項をもとに未習内容の解決について考えるといった授業での取り組みが表れてきている。今後は自分の考えを分かりやすくまとめて表現できるように声をかけていきたい。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに肯定的に答えた児童が全員ではなかった。いじめについては、どんな理由があっても許されない行為であることをこれからも伝え続け、「いじめはいけないことだ」と、全員が認識できる集団づくりをしたい。
- 「朝食を毎日食べていますか」という問いに対し、「あまりしていない」と回答した児童が13%いた。朝食は一日のエネルギーを摂取する上で欠かせないものである。機会あるごとに朝食の必要性について伝えることを通し、規則正しい生活習慣について考えさせていきたい。
- 「富屋ふるさと学習」で地域の方々から様々な協力を得て、児童の学びに生かしてきているが、「地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」という問いに肯定的に回答した児童の割合が県や全国より低い。地域の方々と交流して学んでいることに対して「勉強している・学んでいる」という意識が低いことが考えられる。体験活動やふるさと学習の楽しい雰囲気の中でも、「これは学習なんだ」と児童が考えて取り組めるよう、学習の目当てを明確にするなどして意識を高めていきたい。
- 算数の必要性・有用性を感じてはいるが、いまだ半数が「算数の勉強は好きですか」という問いに対して否定的に回答している。学習内容を「面白い」と感じられるようにしていく工夫はもちろんのこと、「分かった・できた」という、達成の喜びが感じ取れるよう、今後も指導を続けていきたい。

宇都宮市立富屋小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあての提示文・言葉の吟味と、授業におけるまとめ・振り返りの充実(自分の言葉で文章表現させる。)	・めあてと学習問題は区別するために提示文の言葉を吟味して、焦点化された目当てを提示する。 ・授業の最後に、本時の課題に対するまとめを板書して全員で確認し、一人一人が分かったことなどを振り返り、ノートに自分の言葉で文章表現する時間を設けている。	・「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」という問いに対して肯定的に回答した児童の割合が68.4%と県よりも低かった。 ・自分の考えを発表する場面で「自分の話がうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していた。」と考えている児童は約60%であった。
課題に対する考えの足跡が残るようなノート指導(板書)	発達段階に応じたノート指導を行い、各教科の授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り入れている。また、思考の道筋が分かる板書計画と実践(模造紙を活用して教室に掲示し、授業の流れの可視化を図る。)	・「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という問いに肯定的に回答した児童の割合が94.8%と県や全国よりも高かった。